

入賞

糸のつながり

岩出第二中学校 3年 吉野 心結

元来、運命の相手とは「赤い糸」が互いの小指に結ばれていると言われる。もちろん諸説はあるが、聡明な皆様はきっとご存じだろう。そして多くのかたは、ロマンチックだと思ったのではないか。かくいう私もその一人だ。

しかし私には、疑問があった。それは、なぜ「赤い糸」だけなのかという事だ。別に色は世界の中で赤色のみというわけでもなく、恋愛以外の人と人とのつながりが無いわけでもない。だが、一般的に広く言われるのは、運命の「赤い糸」である。

恋愛経験は皆無な私だが、友達はある。おそらく、多かれ少なかれ全ての人に一定数いるのではないか。相手からも友達だと思われているかというシビアな問題は別として。

私が友達にいる時、だいたい他愛もない話で盛り上がっていた。特にこれといって話の内容を覚えられるほどに濃くはなかったが楽しかった。色で表すと黄色やオレンジなどの暖かく明るい色だと思う。

そこで私は気づいた。友情の「黄色い糸」もあるのではないかと。きっと、昔の純情ほとぼしる私なら1.0という微妙な視力を駆使し「黄色い糸」を見つけられていたかもしれないが、現実はそのままで甘くない。

だがしかし、よくよく考えてみて欲しい。所詮は「赤い糸」もメルヘンチックなファンタジーである。私達の目には見えない。大きなくくりでいうと「赤い糸」は「縁」なのだ。

「縁」について考えると、ウィキペディアならぬ私ペディアでは、真っ先に思い浮かぶのが腐れ縁である。あえてここでは、長年の知り合いと言っておこう。

私は、人を紙粘土のようだと思っている。他の生き物と比べ、精神的に他人から受ける影響が大きいからである。

黄色の紙粘土と青色の紙粘土があったとしよう。たとえそれが限られた時間であっても一度でも二つがくっつくと、自信の粘土に相手の色を残してしまう。そして、その色は混ざり緑色になる。

それは人でも言えるのだと思う。誰かと関わり、少なからず影響を受け、自分の中で消化していく。それが人の成長の過程だ。相手や、受ける影響、消化の仕方によってその成長が良いものか悪いものかは人により違うことはあるが、どうしても一時的な気持ちの変化以上のものを、関わりは引き起こすと考えている。

また、相手と深く関わってしようといまいと、長年の付き合いがあればより大きく変化する。例えば家族。一緒にいる時間が多分趣味や考え方が似かよってくるなんて経験はないだろうか。私にはある。でも私自身、常に自覚しているわけではない。「朱に交われれば赤になる」という言葉もあるように、人は無意識下で影響しあっているのだ。

もしや、そんな形の無い関わりを文字という、形あるものにしたいと「赤い糸」というものが生まれたのではないだろうか。だとすると、随分と可愛らしい思いつきだ。考えた人に、そこらへんのバカップルよりも熱々なココアを入れてあげたいくらいだ。

人と人とは、所詮他人同士でしかない。だからこそ、違うからこそ影響しあい、繋がってきたいのだと思う。最近はSNSなどのツールも増え、関わり方も多様化しているが、本質は変化していないと私は感じている。

貴方はこれまで多くの人と関わり、影響を受けたことだろう。ぜひ、その「縁」を大切にしたい。